

# 歴代部長・会長 紹介

～10年の歴史に思いを込めて～

## 回想と未来

JA きたみらい青年部  
連絡協議会会長 平成16年度部長 小野 俊浩



JAきたみらい青年部設立10周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。  
平成15年のきたみらい農協発足に併せ、既存の8 JA青年部組織が一本化すべく協議を重ね、大きな「JAきたみらい青年部」として誕生創成期に関わりを持ってたことにとっても感慨深いものを感じます。そして何よりも多くの方々に支えられ、その土台を練り上げられたことに感謝しています。

当時を顧みると、合併という一つの目的を持ちながら集まった各組織の部長皆さんには、これまで継承してきた各事業への深い思い入れがあり、新しいルールに対する抵抗感も大きいものがあつたように思われます。また自分たちのテリトリーにおいて、新しい概念や基準といったものはアレルギー反応が起こりやすく、とすれば自己中心的思考に陥りやすくなるのが往々にしてあります。私自身も、幾度となく自分の固定された物差しで、他を非難していた時期もありました。しかし、それぞれのリーダーは、置かれている現状に対して、行えるすべての事業を遂行し、少ない部員のなかで、後継者と仲間意識を育てていたことには相違がなかったように思われます。結局、同じ立場で場所こそ違えど、思い悩みは同じということだったのでしょう。そういった相互理解を深めるという部分に、時間がかかったのを覚えています。酒を飲み、良いことも悪いことも、理解できることも理解できないことも、お互い腹を割って、時には熱くなりながら討論したことが今ではいい思い出になっています。無駄な金と時間を費やした気持ちは微塵もありません。今でも当時、酒を飲み、言い合った仲間との時間は、私の貴重な財産です。

準備会から設立と足掛け2年間の部長職でしたが、きたみらい青年部として統一活動を考えるにあたり、色々なレクレーションや講演会など様々な意見が出されましたが、私自身「何か形の残る物」を統一活動として実施したいと思っていました。そこで、「きたみらい」のイメージを広くPRする立て看板を作製することにしました。私のハウスを作製場所にし、日替わり体制を組み、8支部全てが携わるようにしました。北見地区青年部などの研修会では見かけたことはあっても、同じ作業をすることなどありませんでしたから、日々新鮮な感覚で作業に当たったことを覚えています。今更ですが「あの時は、本当にありがとう!」と感謝の言葉を改めて述べさせていただきます。今後、部員減少などの原因により、地区組織の統合や事業の見直しといった諸問題が起きて来るでしょうが、是非とも、地域に根ざした青年部活動を守って行って欲しいと思います。やはり、新しく貴重な人材は地域から芽吹きます。

それを地域で育み、やがて大きな場所へと活躍の場を広げていくのが重要なことだと考えます。何年後かには「きたみらい」の担い手として、JAの舵取りに活躍してもらいたいものです。時間は十分にあります。決して焦ることなく青年部組織の中で広く学び、人格と人脈を築き上げてください。

結びに、こんな私と2年間も行動を共にしてくれた仲間と支えてくれた若い青年部の方々、準備会から共に悩み指南してくれたJA職員の方々に心から感謝申し上げ、記念の日に寄せる言葉と致します。

## 青年部に期待

JA きたみらい青年部  
平成17年度部長 竹中 義博



JAきたみらい青年部が創立以来、盟友が共に手を携え、農業の発展とJA運動の前進に向けて活動を積み重ねられ、ここに10周年を迎えられますことに心から敬意を表します。

私は平成17年度に、初代部長である小野俊浩さんよりバトンを引き継ぎ、青年部員数350名の部長という大役を務めさせていただきました。連絡協議会設立当初から副部長として携わってはありましたが、身の引き締まる思いであつたことが今でも昨日のこのように鮮明に思い出されます。

活動にあつては、部員間の交流を深めることが最重要課題ととらえ、広く参加を募ることができる「8支部交流ソフトボール大会」を開催しました。初の試みで、手探り状態でしたが、153名と多くの盟友の参加をいただき、競技はもちろん、懇親会でも親睦を深めることができ、当初の目的を達成することができました。また、冬期の学習会では北海道糖業北見製糖工場を訪れ、今後の砂糖情勢について理解を深めました。

部長としての任期は1年間ではありましたが、大槻尚浩さん、長山正吉さんの両副部長をはじめ、多くの皆様方からご協力いただき、大変充実した1年となりました。あらためて感謝を申し上げます。

青年部は若い頭脳と若い行動力の集まりです。新しい政策や、新しい技術等、様々なことを学び、積極的に取り組み、これまで以上に幅広い活動を展開していくことを期待しています。

最後になりましたが、JAきたみらい青年部が、今後、地域農業・北海道農業・日本農業をリードしていくことを心からご祈念申し上げ、10周年のお祝いの言葉といたします。



## 青年部 10周年を祝して

JA きたみらい青年部

平成18年度部長 大邑 和治



この度、JAきたみらい青年部設立10周年を迎えるにあたり、心からお慶び申し上げますとともに、諸先輩、関係者並びに部員の皆様に敬意を表します。

きたみらい青年部との最初の関わりは、設立2年目に竹中義博氏が部長を務め、私が温根湯支部の支部長として、本部役員の一員となった時からです。当時の私は32歳と若く、酒席では先輩の皆さんにご迷惑をかけた、あるいはいろいろな部分でご助言を賜りましたが、今では懐かしい一つの思い出として残っています。

平成18年度の役員を決める際、竹中部長から部長に指名された時は大変驚き、どう返事してよいのか困ったことを昨日のように覚えています。年齢的には、当時の役員の中でも中間くらいでしたが、設立当初から青年部事務局を担当してくれた堀さんが、継続して事務局を担当することが部長を引き受けた要因の一つでもあります。

当時の青年部員数は344名の大所帯で、前年から始めた8支部統一活動「ソフトボール大会」(雨天でドッジボールに変更)終了後に開かれた懇親会は賑やかに行われ、さらには学習会なども積極的に開くことができました。

このようななか、私が一番不安に感じたのが、JAきたみらいの合併3周年を記念して開かれた農業祭でした。当青年部も実行委員会の一員として協力し、青年部支部対抗の「トラクター綱引き大会」を企画し、農業祭を盛り上げる一端を担いました。祭りも無事終了したとき、参加した部員とともに喜び合い、これを機に役員同士の協調性が一段と高まりました。また、実行委員会の一員でもあった女性部やフレミズの役員の方々と交流が図られ、楽しい経験を得ることができました。部長という重責を経験し、たくさんの貴重な体験や大勢の仲間と出会えたことが自分の財産となりました。現在でも、JA総代会や各種講習会などで当時の仲間と顔を合わすたびに、近況報告や飲み会の約束をしたりするなど親しく交流を続けており、部長を引き受けて本当に良かったと思っています。

最後になりますが、きたみらい青年部が部員結束のもとで一層飛躍されることを願い、お祝いの言葉と致します。

## 設立10周年に寄せて

JA きたみらい青年部

平成19年度部長 井上 一味



JAきたみらい青年部の設立10周年と、1年1年積み重ねてきた歴史を編纂した記念誌発刊、誠にありがとうございます。改めて敬意と賛辞を贈ります。

私が部長を務めた平成19年度は、青年部が設立から4年目を迎え、大きな方向性は出来上がったということもあり、部員皆様の協力のもとある程度スムーズな運営ができたように思えます。

当時は341名の部員にも恵まれ、11名の役員体制で4回の役員会のもと、8支部統一活動として「交流ソフトボール大会」を146名の参加で行い、冬期は部員学習会としてバイオエタノールの勉強を行いました。

また相内のアピール看板の環境整備や、当時支部単位が多かった国内外研修についても全部員へのアンケートを集計し、今後の方向性を皆様と協議した記憶があります。

現在、JAきたみらい全体もセンター構想のもと、組織の統合が進んでおります。

若い世代から地域を越え、「きたみらい」として1つになり、これからの農業情勢や国際情勢に負けない基盤を築き、青年部組織としての広い交流と仲間づくりで更なる充実した活動のなかで、JAきたみらい青年部が益々発展されますことを強く願い、簡単ではありますが設立10周年に寄せる言葉とさせていただきます。

## 青年部だからこそ

JA きたみらい青年部

平成20年度部長 田中 雄二郎



JAきたみらい青年部が設立10周年を迎えましたことに、心からお祝い申し上げます。

私は、JAきたみらい青年部が設立して中間地点の平成20年度に部長に選任されましたが、ちょうど青年部活動の見直しを図る時期でした。

当初は責任ある立場ゆえ、極度に緊張しつつ精一杯青年部活動に取り組みました。しかし、後半になると肩の力も抜けて広く周りを見られるようになりました。

そのようななか、「青年部にしか出来ないこと」、「するべきこと」がたくさんあることに気がきました。そのうちの思い出深いのが、平成21年度に行われた青年部単独の「オーストラリア農業視察研修」でした。

20年度当時は、日豪EPA(経済連携協定)交渉など、自由化を巡る貿易交渉の緊張が高まりつつあるなか、地域農業及びJA運動の発展につなげることを狙いに、本部役員が中心となって「海外農業視察研修検討委員会」を設けました。

視察先や実施日、実施要領の制定、参集範囲などを中心に会議や意見交換、さらにJAの「農業パートナー・後継者研修に関する助成」の適用も見出し、21年度の青年部執行部へ引き継ぎました。私も「青年部員の今しか行けない」と考え、10名の部員とともに参加させていただきました。7日間の視察研修は、普段は体験できない日本との農業・文化の違いや、オーストラリア独自の先進的な農業経営などを学ぶことができ、農業に対する視野が広がった貴重な体験となりました。

今後においても青年部の皆さんにも、視察研修など青年部活動に積極的に参加していただき、JAきたみらい青年部がより発展する糧にし、更なるご発展をご祈念申し上げ、10周年のお祝いの言葉と致します。

## 成長させてくれた1年

JA きたみらい青年部

平成21年度部長 村上 孝幸



JAきたみらい青年部が平成16年2月に誕生し、この度、節目の設立10周年を迎えたことに対しまして、心からお祝い申し上げます。また、1年1年の歴史を積み重ねてきた役員並びに部員皆様のご苦勞に、改めて敬意を表します。

私は、平成21年度の青年部第5回通常総代会において部長に選任されました。本部役員11名の中で1番年下だったこともあり、内心は不安とプレッシャーがいつぱいのなか、上野雅美さん、本條康浩さんの両副部長にいつも助けられ、部長という大役を果たすことが出来たと感謝しています。

この年から、新たな事業が2つ取り組まれました。その1つは、きたみらい青年部単独の海外農業視察研修でした。この事業は、地域農業の活性化とJA運動の発展向上を目指し、前年度役員の方々が練りに練って実現となったものです。11名の部員が参加し、視察先はオーストラリアでした。私は残念ながら参加することは出来ませんでしたが、参加した部員からは「農業に対する視野が広がった」、「貴重な体験を得た」などの声が寄せられました。また、この事業の実施にあたっては、JAきたみらいが制定したパートナーと後継者に対して研修助成をしていただいたことに、深く感謝している次第です。

2つ目は、全ての農作業も終了した12月に行われた外郭三組織合同視察研修です。この事業は「組織リーダー育成・体制強化」を目的に、JAの第3次地域農業振興方策に基づいて実施されたものです。普段、交流する機会が少ない女性部とフレミズの皆さんと、担い手組織としてのあるべき姿を見つめ直す大きな切っ掛けとなりましたが、現在も継続されていることに喜びを感じています。

部長という大役を務めた1年間は、大切な友人にも出会え、いろいろなことを学び、自分を大きく成長させてくれました。

最後になりましたが、JAきたみらい青年部の益々のご発展をご祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 自らの力で得る努力を

JA きたみらい青年部

平成22年度部長 長山 和弘



JAきたみらい青年部が設立10周年を迎えられることを、心よりお祝い申し上げます。

今、私が青年部の部長を務めた平成22年度を振り返ると、宮崎県を中心に発生した「口蹄疫」の蔓延防止に万全を期するため、8支部交流ソフトボール大会と農林水産省職員ファームステイ事業の中止、さらには国内農業視察研修先の変更などを余儀なくされた時であったかと思ひ起こされます。

このような環境のなか、当時の本部役員の皆さんには大変ご苦労をお掛けしましたが、私自身、広域青年部長として責務を全うする上で、支部間を横断する部員のつながりを深めることに心掛けてきました。

支部長時代に、「JAきたみらい青年部」とは言え、組織合併の本来の意義が気薄になり、部員個々の意識改革が必要だと強く感じました。

その打開策の一つとして、本部役員間の一体化を最優先とし、会議終了後には“魔法の力水”を借り、コミュニケーションを積極的に図りました。当時の仲間とは今でも強い絆で結ばれ、八木沼朋紀さん、井上貴博さんの両副部長には多々ご迷惑を掛けましたが、お互い切磋琢磨する良きライバルという大きな存在となっています。

今後とも多くのことを学び、また多くの仲間を作ることが青年部活動の最大のメリットですが、部員一人ひとり、自らの力で得る努力を行わなければ、そこには何も生まれません。是非とも、青年部活動に積極的に参画し、有意義なものにしていただきたいと切に願う次第です。

最後になりますが、10周年を一つの契機とされまして、今後の更なる発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

JA きたみらい青年部

平成23年度部長 中村 圭一



## 参加することが第一歩

JAきたみらい青年部設立10周年、誠におめでとうございます。

平成16年2月に、8JA青年部が一つになって設立以来、一歩ずつ前進させ、歴史を積み重ねてこられた歴代役員並びに部員の皆様に、深く敬意を表します。

私が青年部長を務めさせていただいた平成23年度は、今なお傷の癒えない東日本大震災が発生しました。自然の恐ろしさを改めて思い知ったところに6月10日、11日の両日に発生した降雹と集中豪雨により、きたみらい管内でも3150㍏の被害を受け、玉葱を中心に430㍏が廃耕、我が家も玉葱の全面積を廃耕した辛い思い出の残る年でした。

第7回の通常総代会で承認された活動をはじめ、JAびほろ青年部と合同で開催した農水省職員ファームステイ事業、パートナー対策事業の一環として取り組んだ「女性との交流パーティー」、さらに道農青協とともに農業青年としての問題点や不満（希望）をまとめ、形にしたポリシーブックの作成など、初事業を行った挑戦と苦勞の多い年でありました。石見啓伸さん、奥山拓博さん両副部長をはじめ、本部役員の協力と知恵を借りて全事業を執行できたことに感謝しております。

部長としての任期は1年でしたが、悩みもやりがいも多く非常に充実した1年であり、改めて仲間の絆の素晴らしさを知りました。

このように、何かを得られる組織活動に部員皆さんも積極的に参加し、これからの20年、30年と末長くご発展することに寄与し、JAきたみらい青年部の益々の飛躍をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 組織検討会の発足

JA きたみらい青年部

平成24年度部長 佐藤 正人



JAきたみらい青年部の設立10周年を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

私は平成24年度において、きたみらい青年部長という大役を務めさせていただきましたが、様々な貴重な体験をさせていただきました。

当時は振り返ってみますと、近年続いている異常気象がこの年にも当たり、長雨、降雹など1年間通して天候不順となり大変苦勞しました。また農政においても、農業はもちろんのこと、国を揺るがすTPP交渉参加についても問題となった年でありました。24年度青年部事業においては、各種学習会・交流会、農協事業への参加、そしてオホーツクJA青年部協議会、北海道JA青年部協議会の各種事業にも積極的に参加してまいりました。その中でも、年々きたみらい青年部部員数が減少し、役員への負担増も見据えた中で立ち上げた組織検討会発足が印象に残っております。現役員、次期役員一同が組織を一度見直し、より良い組織にするために長期計画のもと実行されました。様々な賛否両論はありましたが、皆様のご協力により一定の理解を得られ進んできたことを大変感謝しております。

このように、日々変化する組織活動、また経営状況において対応していくためにも青年部活動は非常に大切なものだと考えます。様々な経営形態の方が集まっている青年部だからこそ、広い視野での打開策が模索できますし、それに伴った行動が自分自身を成長させ、かつ地域農業発展にも繋がっていくのではないかと考えているからです。

最後になりますが、部長という大役を無事終えられたのも、当時の役員をはじめ、盟友、事務局の支え、そして家族の理解があったからこそだと思っております。この貴重な経験を、今後の経営や生活に生かし、農業発展に力を注ぎたいと思います。

きたみらい青年部が10周年を迎え、今後益々のご発展と関係機関の皆様のご健勝をご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。

JA きたみらい青年部

平成25年度部長 荒 喜文



## 青年部の誇りと柔軟な発想を

JAきたみらい青年部が10周年の節目を迎え、これまで諸先輩方がひとつひとつ積み上げてきた足跡を振り返り、改めて敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げる次第でございます。

現青年部員としてこの節目に立ち会うことができたことに大きな喜びを感じております。

また、この度、記念事業の一環として記念誌が発刊され、活動の足跡を刻むことは誠に意義深く、永く後世に引き継がれるものと確信しております。

私は青年部活動を通じて、人と人の関わり方や個人と組織のあり方、組織運営のあり方など、多くを学びながら成長してゆける拠り所が青年部の役割だと強く感じました。

青年部の盟友である期間は限られますが、組織活動を幹として新たな枝、葉ができて広がりをみせ、他の支部や他の市町村の盟友との様々な情報交換で得ることは、自分たちにとって有益なものも多く、小さな経験であっても何一つとして無駄なことは無いものだと自負しています。一人では出来ないことも仲間とならできることを学んだのが青年部活動であり、自分自身にとって有意義な時間であると、今改めて再認識しております。

これからも農業を取り巻く状況は変化が絶えないと思いますが、自分たちの生産のみならず国民の食を守る意識を持ち、青年部の誇りと柔軟な発想でこの時代を乗り切らなければなりません。そのためにも組織活動へ積極的に参加し、そこで得た仲間と切磋琢磨しながら、チャレンジ精神をもって未来を創造することが不可欠であり、青年部としての使命だと思っております。

最後になりますが、いつの時代も青年部が現場の声を消費者に向け発信し、食を担う農業への理解を広げていくことが大切です。

農業に対する誇りを次の世代へ受け継いでいくために、JAきたみらい青年部が一致結束し、地域のリーダー的役割を担い、益々発展していくことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 友情と絆を深める組織に

JA きたみらい女性部  
連絡協議会会長 渡辺 茂子



JAきたみらい女性部設立10周年、誠におめでとうございます。さらに10年の節目に、歴史の積み重ねをまとめた記念誌発刊に対し、心よりお慶び申し上げます。

平成15年2月1日に、1市4町の8農協が広域合併することに伴い、私たち8農協の女性部も同様に将来の一本化を目指し、平成14年11月に準備委員会を設置。翌年の2月27日に、農村女性の新たな枠組みの再編成と、新たな意思統一を図るために地域の垣根を越え、創造性豊かな組織設立に向けたJAきたみらい女性部連絡協議会が設立されました。

8支部の活動実態、収支予算、部員数などの情報収集に努めましたが、「何から進めてよいのか?」というのが実態でした。JAの再編成が急速に進む中、平成14年に5JAの女性部が統一されたJA道央女性部の視察研修を役員11名で取り組みました。同女性部の役員皆さんと、部員構成や役員の任期、JA助成金の基準と配分方法、部員会費、会議構成などを中心にご助言や意見交換などを行い、「JAきたみらい女性部」誕生への道筋を描く、有意義な研修となりました。一本化によって各支部の活動衰退と部員の減少を避ける、魅力ある組織作りなどを大前提に、限られた時間内でしたが、役員会で慎重に協議を進めてきました。その結果、各支部の合意のもと翌年の3月3日、北見芸術文化ホールで122名の部員出席のもと「JAきたみらい女性部」の設立総会が開かれ、初代部長に選任された坂下恵子さんをはじめ、11名の役員皆さんにバトンタッチすることができました。このことは、準備委員会や連絡協議会役員の方々と600名あまりの部員の皆さん、そして事務局職員の方々のお力添えによって成し得たものであり、ここに改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、農で生きる女性(仲間)は、素晴らしい友情と絆を深める力があります。どんな困難にも果敢に立ち向かい、女性の力を発揮できる女性部であることを願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 巡り合わせに感謝

JA きたみらい女性部  
平成16年度部長 坂下 恵子



JAきたみらい女性部設立10周年、おめでとうございます。

これまでお力添えをいただいた方々、バトンを繋いでこられた部員、役員の方々に心より感謝申し上げます。平成15年2月にJAきたみらいの誕生に伴い、翌年3月3日に、部員数592名の大所帯の女性部が誕生しました。

旧8JAの女性部一本化に向けた準備委員会及び連絡協議会の会長を務めた渡辺茂子さんは、温厚で説得力のある会話が方向性を見出すなど、とても立派な先輩の後に、わずか24名の部員の支部からの私は、責任の大きさに心が押し潰されそうでした。

しかし、8つの列車は連結して走り出したのです。

初年度の統一活動は、宝井琴枝氏を講師に招き、設立総会時の記念講演と位置付け、支部独自の活動を重視することにしました。本部活動は6月上旬、本部役員視察を行い、お互いの顔と名前が一致しませんでした。同世代、同じ農業を営むお母さんたちですから、話の合わないはずもなく、すぐに溶け込み気持ちがとても楽になりました。その数日後、合併先輩のJA道央女性部の皆さんが、研修で私たち女性部の訪問を機に意見交換を行いました。支部間で少しずつ「考え方に差がある」、大所帯になることで支部活動が衰退する心配がある反面、「活動の幅が広がる」などの意見が寄せられ、貴重な時間を持つことができました。

多種多様な活動を経て、部員の皆さんや役員の方々に支えていただきながら、何とか次の駅(次年度)に到着させることができました。最後の役員会で、役員皆さんは「いろいろと中身が分かって勉強になった」、「知らなかった人とも友達になれて良かった」と、1年間を振り返ってくれました。そして何より、この様な巡り合わせに出会えたことを感謝したいと思います。

最後になりましたが、本部事務局の堀さんをはじめ、8支部事務局の皆さん本当にありがとうございました。さらに、JAきたみらい女性部が今後、益々発展されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

## 記念の節目に思う

JA きたみらい女性部  
平成17年度部長 五十嵐 真知子



この度、JAきたみらい女性部が設立10周年という節目の年を迎えたことに、心からお祝い申し上げます。

時の経つのは早いもので、旧8JAの女性部が1つになって活動を始めてから10年、「もう10年になったんだ!」と、とても嬉しく思います。これはJAをはじめとした関係機関のバックアップと、部員一人ひとりの前進する力が、現在の「JAきたみらい女性部」へとつながった証と言っても決して過言ではないと考えます。

私が部長を務めさせていただいた平成17年は、8支部の部員間交流を一刻も早く深めることが重要視されていたなか、7月に「8支部合同一泊研修」が初めて取り組まれました。参加いただいた170名の部員皆さんは、貸し切りバス5台に分乗し、一路十勝へと向かいました。「氷川きよしコンサート」の鑑賞、一堂に会した大懇親会での交流、森林内に設けられた「ニングルテラス」の散策、広い畑に咲き誇る「ファーム富田」のラベンダーで心を癒すなど、2日間という限られた時間内でしたが、部員間の交流と親睦によって意思疎通が図られたと思っています。

JAきたみらいの誕生前は、別々に活動していた組織が一つになって活動することは容易ではありませんでしたが、一步一步ということを心に刻み、やがて「一つの輪」になれるという思いで日々過ごしていたように思います。活動を通して一緒に考え、一緒に悩み、一緒に笑った貴重な経験のなかで、掛けがえのない仲間もたくさんできたことは、私にとって本当に良い経験をさせていただいたと感謝申し上げます。

農村地域の高齢化や部員減少問題など、いろいろな課題が山積していますが、農業を営む女性の声を発信し、これからも一層、JAきたみらい女性部が発展し続けることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 部員の結集力で不可能を可能に

JA きたみらい女性部  
平成18年度部長 福井 幸子



JAきたみらい女性部設立10周年並びに記念誌の発刊にあたり、心よりお慶び申し上げます。

10年という長い道のりを、部員一人ひとりが協力し合って1年1年積み重ねてきたご努力に深く敬意を表するとともに、女性部活動に関わりを持たせたことに改めて感謝申し上げます。

平成18年2月の女性部第2回通常総代会の席上で部長に選任された私は、副部長や理事・監事に選任された10名の役員皆さんとともに、部員が「参加して良かった」と感じていただける諸活動に取り組んできました。

収穫作業の繁忙期に行われたJAきたみらい合併3周年記念事業の「ふれあい農業祭」には、役員の方々の積極的な応援をいただき、「揚げいも」の販売を行い、益金は道女性協が呼び掛けていた「タイ、チェンマイ女性部」の募金に寄贈。一人でも多くの部員が参加できる日程を組んで開かれた料理講習会とフラワーアレンジ講習会の「8支部統一活動」、「JA全道女性大会」、「北見地区女性部研修大会」などの活動は、部員皆様のご理解とご協力により、無事終えることができました。

各支部の支部長の皆さんも、自らではなく推されてのことと思いますが、総代会前の役員会で部長という大役に指名された時、「私にはとても出来ない!」と消極的になりました。しかし一人の力では不可能なことも、大勢の力で可能になり、さらにその時々巡り合わせで、組織の運びも活気ある楽しいものになっていると日を重ねるごとに痛感しました。是非、一人ひとりのアイディアを生かした楽しい活動の継続と、一人でも多くの方々の入部と、農業者同士の出会いで元気で明るい地域農業を支えあっていただきたいと願っています。「農協婦人部」が設立された頃に想いを馳せた時、戦後間もない厳しい生活環境のなかから今日に至る60年あまり、名称が「女性部」に変わり、豊かすぎたの問題も多く抱えるなかで今を思うと、たくさんのご縁と一期一会に感謝です。

最後になりましたが、JAきたみらい女性部が節目の10周年を機に、さらなるご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 新たな歴史のスタート

JA きたみらい女性部  
平成19年度部長 清井 久美子



JAきたみらい女性部設立10周年と10年の歩みを記した記念誌の発刊、心よりお祝い申し上げます。  
私は平成19年度に、部長職を預かりました。前年は、支部長として本部役員として活動した際、他役員の方々に家庭の諸事情でご迷惑を掛けながらの1年でした。

部長という責任ある立場で、正常な判断ができるのだろうかと不安でした。父のうつ病、母の認知症に心労も重なってきたなかで、本部役員会や研修大会などに出ることでストレスも発散出来て、後から思えば最高の場所と機会をいただきました。

当女性部の本部役員体制から、オホーツク女性協の役員に副部長を派遣することが決議されたのもこの年で、ホッとしたりドキドキしたり、内心気が気ではありませんでした。「凛として生きる！」一生の目標です。

平成19年4月に開かれたJAきたみらい第4回通常総代会席上で、任期満了に伴い、役員を退任する今は亡き高橋俊一組合長に、花束を贈呈出来たのも印象深く心に残っています。

現在は一人の部員として、支部や本部活動に参加させていただいていますが、部員減少に悩む役員皆さんが歯止め策を考えると同時に、女性部の魅力を伝えながら勧誘活動を行っている姿に、心温まるものを感じます。

また今年の1月末に開かれたオホーツクJA女性部大会・家の光大会のアトラクションに参加する支部の皆さんが、農作業の合間をみて行う踊りの練習、あるいは衣装を作ったりの日に、団結力や協調性が高まっているのも事実です。小さな積み重ねによって、きっと「今度から参加しよう!」、「女性部に入ってみよう!」と感じさせる集いが広がっていくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、10年の節目を糧に、JAきたみらい女性部が益々ご発展され、素晴らしい歴史が刻み込まれることをご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。

## 魅力ある活動の展開

JA きたみらい女性部  
平成20年度部長 戸田 富美子



JAきたみらい女性部設立10周年並びに記念誌の発刊、心よりお慶び申し上げますと共に、改めて10年の年月の早さに驚いている次第です。

平成20年度に部長という大役を務めさせていただき、役員及び部員の皆さん、さらに事務局や関係機関など多くの皆様に支えられながら活動を進めて来ましたが、10年という輝かしい節目を迎え、女性部員の一人として嬉しく思っています。

当時を振り返ると、2つの活動が印象深く残っています。一つは、JA合併5周年を記念した「第2回ふれあい農業祭」に参画し、「揚げ芋」と「じゃがバター」のコーナーを設け、会場に訪れた多くの地域住民の皆さんに農業をアピールしました。少し肌寒さを感じた当日は、温かい食べ物が大人気で、次から次へと揚げても売り切れ状態。長時間、足を棒にして辛い部分もありましたが、とても充実した気持ちに浸りました。

もう一つは、193名の部員が参加して開かれた8支部統一活動「部員研修会」です。午前中はタマネギや白花豆、ペコロス、ニンジンなど地場産の食材を生かした「料理講習会」。会場の大型スクリーンに、映し出されたプロのシェフの鮮やかな調理に見とれながら、ポイントを熱心に記録していました。本研修会にあたっては、前日の仕込みや準備作業にご足労いただいた本部役員と支部役員の協力、そして何よりも多くの部員の参加協力で改めて厚くお礼申し上げます。

私たちは、自然を相手に「天の恵み」と「地の恩」、「人の努力」によって農業を営む職業ですが、このことに「生命を育てる一次産業」と自信と誇りを持って良いのではないのでしょうか。次世代の担い手に農業を継続していくうえで、女性部活動も重要な意味を持っていると思います。

最後になりましたが、今後とも魅力ある女性部活動の展開と部員皆様のご健康をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 強い絆で更なる飛躍

JA きたみらい女性部  
平成21年度部長 吉田 和子



JAきたみらい女性部が輝かしい設立10周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。  
また、旧8JA女性部の一本化に向け、基礎作りにご努力いただきました連絡協議会の役員皆様、さらに今まで、女性部発展などにご尽力された歴代役員をはじめとした部員皆様に深く感謝申し上げます。

平成21年度に私は、400名あまりの部員で構成されている本女性部の部長を担当させていただき、数々の思い出が浮かび上がってきます。

バス4台に分乗して行われた8支部合同一泊研修。一曲一曲の歌唱力に魅了された美輪明宏さんの公演、部員一堂に会した懇親会などで、当初目的の部員間交流と親睦を図ることができました。

他JA女性部員のパワーに終始圧倒された東北・北海道地区JA女性組織リーダー研修会。初めて取り組まれたJAきたみらい外郭三組織の合同研修では、「報徳の教えと助け合い」や「食農教育」、「直売所」などを学びました。さらにJA千葉みらいの女性理事とも懇談し、女性の声がJA事業などに反映されていることに驚きを感じました。

このように組織は、私たちに貴重な勉強と多くの体験を得る機会を与えてくれました。1年間の任期でしたが、多くの仲間同士の強いつながりのなかで受けた友情や関係者のご指導の賜物は、いつまでも忘れることはできません。私が無事、部長を終えられたのも、2人の副部長をはじめとした役員皆さんと事務局、そして地域の皆さんのご理解と手助けによるものです。貴重な誌面をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

最後になりましたが、JAや各関係機関のご指導を賜りながら、強い絆をもってJAきたみらい女性部が今後、更なる飛躍を遂げられますことをご祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 仲間意識が強まった1年

JA きたみらい女性部  
平成22年度部長 貝沼 輝美



この度のJAきたみらい女性部設立10周年と、一つの節目を機会に10年の歩みを纏めた記念誌発刊にあたり、心よりお慶び申し上げます。

私が女性部長をさせていただいた平成22年度は、「ゲリラ豪雨」や「口蹄疫」、さらに突如、政府が表明した「TPP(環太平洋経済連携協定)参加」問題など、農家にとっては大変な年でしたが、仲間意識を一層強めてくれた1年でした。

そのようななか、本部活動の8支部統一活動では、宮本クッキング校長の宮本和彦さんを講師に迎え、きたみらい産食材の魅力を伝える「家の光クッキングフェスタ」を開催しました。

前日の仕込み作業や当日の調理など本・支部役員25名によって、6品の創作料理を作り上げ、部員や北見商工会女性会、小学生、各関係機関の方々に召し上がっていただきました。また当日は、当JAの青年部、フレッシュミズ本部役員の皆さんにもご協力いただき、外郭三組織の絆を一層強める事業となりました。

JA常勤役員との意見交換会も初めて行い、外郭組織の現状や課題などを伝えると同時に、JAが私たち組織に望む案件などについて様々な角度から意見を述べ合い、とても有意義な会となりました。

以上のように特筆する活動を記しましたが、その他活動においても部員皆様のご協力、さらにJAや普及センターなど関係諸団体のご支援、ご協力により、女性部活動を終えたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありますが、女性の強い絆と連帯によって、JAきたみらい女性部が益々のご活躍とご発展をご祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 理解しあえる仲間と共に

JA きたみらい女性部  
平成23年度部長 上原 由紀子



JAきたみらい女性部が設立10周年を迎えましたことを、心よりお慶び申し上げます。

平成23年は、東日本大震災、福島原発事故と未曾有の災害や当地域における降雹、集中豪雨など自然の猛威を目の当たりにし、厳しさを痛感させられました。

女性部においては、部員減少のなかでの役員選出の難しさ、また活動における負担増の問題などを抱え「組織検討会」を設置しました。最初はこの言葉に「自分たちの支部がなくなるのでは」という不安もあり、課題に対する意識の共有には時間がかかりました。

このような戸惑いのなか、初めての支部間交流活動が行われ、スポーツ交流や視察研修など現在に至っています。8支部統一活動は、合同一泊研修を実施し、177名の部員参加のもと1日目は、劇団四季の「ライオンキング」鑑賞と「あぐり王国北海道」メインキャスト・森崎博之さんの講演。2日目は4コースに分かれ、支部単位ではなく部員一人ひとりが選択する形を試みました。参加者が一堂に会したのは夜の懇親会だけでしたが、おいしい料理やゲームで盛り上がり、より一層の交流を図ることができました。

また、この年度は、役員負担軽減を目的に、今までの「支部総会」が「活動報告会」に変わり、来賓の案内を廃止し、部員のみで年一度の懇談の場として行なわれました。

1年間、無力ながらも部長として部員皆様の力強いご協力と、事務局の支えをいただき活動できましたことを心より感謝しております。私たちは、農業を通じ、理解しあえる仲間と共に楽しく活動できる場所があります。この素晴らしさを次世代につなげて行くためにもJA女性部がさらに絆を強め、益々ご発展されますようご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



## 10周年おめでとう

JA きたみらいフレッシュミズ  
連絡協議会会長 寺崎 淳子



JAきたみらいフレッシュミズが、記念すべき設立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

常呂ブロック8JAが広域合併を行い、平成15年2月1日に新JAの誕生により、私たち旧8JAのフレッシュミズも将来の一本化を目指し、平成14年11月の準備委員会発足から、翌年の2月24日に方向性を見出す連絡協議会へと移行されました。私は、準備委員会の委員と連絡協議会の会長を務めさせていただきました。連絡協議会の役割は、農村女性の新たな枠組みの再編成と新たな意思統一を図るために地域の垣根を越え、創造性豊かな組織作りでしたが、当初は「何からやったらいいの?」といった状態でした。

このようななか、北見地域と作付け形態が類似し、平成15年4月に誕生したJAふらの女性部を視察し、設立経過や収支予算、活動計画などの説明を受けたあと、組織確立に向けた素直な意見交換を行うなど、有意義な研修となりました。

組織の規約(案)を作り上げるなかで、一番苦慮したのは役員(会長)の選任方法でした。誰もが「責任が重い、会長職だけは避けたい」というのが、いつの時代も同じだと考えます。しかし、組織を形成していくうえで、リーダー確立は避けて通れないもので、その重要性と選任方法(案)を220名あまりの会員皆さんに、理解していただくのに時間を要しました。その結果、翌年の2月24日に207名の会員が出席して、「JAきたみらいフレッシュミズ」設立総会を開催し、すべての提出議案が全会一致で承認され、胸を撫で下ろしたことを今でも鮮明に覚えています。それから早10年の年月が流れ、節目の10周年を迎えたことに、人一倍喜んで一人です。

農業を営む農村女性が楽しく集える組織は、「フレッシュミズ」と確信しています。是非、今後も益々ご発展されることを願い、お祝いの言葉と致します。

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成16年度会長 萬城 一葉



## 頑張る仲間の存在を励みに

JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年おめでとうございます。

旧8農協の広域合併に戸惑いと不安を抱きながら、平成16年2月のJAきたみらいフレッシュミズ設立総会の席上で会長に選任されました。副会長2名をはじめとした役員皆さんの支えと、事務局の堀さんに導かれながら何とか1年の大役を務めることができました。

今振り返ると、全道各地で活動されているバイタリティー溢れる“農家のお嫁さん”皆さんと交流出来たことが、とても印象に残っています。

特に思い出深いのは、オホーツク管内のフレミズ交流会で、全会員対象に実施したアンケート調査です。

網走や紋別、佐呂間、東藻琴など今まで交流がなかった地域の仲間たちが、仕事や生活に対する悩みや不満などを率直に出し合うなかで、自らの生活をよりよいものに改善したいというエネルギーが渦巻いていることを実感しました。同時に、家族一人ひとりの思いを反映させた「家族経営協定」を結ぶことによって、家庭や仕事におけるそれぞれの役割を明確にし、労働条件を必要に応じて改善することで、気持ち良く生活を送ることができることを学びました。

自分の知らない土地で、自分と共通の喜怒哀楽を感じながら仕事をがんばっている仲間の存在は、私にとっても大きな励みとなりました。

私は今、女性部の一員として活動に参加していますが、毎年部員の減少傾向には胸が痛みます。これから先の10年を展望したとき、女性部のみならず、農家戸数の減少に歯止めがかかっているのでしょうか……。TPP問題や規制改革会議による農協を解体するような農業改革など、私たちの未来にとって心配な問題が山積みしていますが、1戸1戸の農家が安心して農業を続けられるために存在する、そんな農協組織であって欲しいと心から願っています。



## 前向きな考えを聞き心に变化

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成17年度会長 平野 美香子



JAきたみらいフレッシュミズの設立10周年、並びに記念誌の発刊にあたり心よりお慶び申し上げます。

「10年ひと昔」とも言われているなか、組織の歴史を積み重ねてきた歴代役員と会員の皆様に改めて敬意と感謝を申し上げます。

平成17年2月の総代会の席上で、会長に選任されました。「誰かが引き受けなければ」と認識はしていましたが、後先のことを考えずに受けた記憶があります。総代会も終え、家路を急ぐ頭の中は「大変な役を受けた。大丈夫だろうか?」という不安ばかりが浮かんでいました。

第1回役員会が3月末に開かれ、活動計画や予算の再確認、さらに直近の活動をどのように進めて行くかなどを協議しました。そのなかで、役員皆さんの前向きな考えを聞き、今までの不安から「大丈夫! やっていける」と、私の気持ちに変化を与えてくれました。

農作業が始まると会議はいつも夜でしたが、全員が出席してくれました。その甲斐あって「役員視察研修」、8支部統一活動の「会員研修会」、北見管内及び全道につながる各研修会において、「楽しかった!」「良かった!」などの声を得たなかで、すべての事業を終えることができました。

これもひとえに役員をはじめ会員皆さん、さらに事務局など大勢の方々の支えとご協力によるものと感謝しています。

いま思えば1年という短い時間での経験は、9年を経た今も私にとって「貴重な宝物」となっています。

農業を取り巻く環境は年々厳しさを増していますが、10年の節目をステップに、JAきたみらいフレッシュミズが益々ご発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

## 更なる飛躍を願って

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成18年度会長 小林 としみ



JAきたみらいフレッシュミズの会員の皆さん、設立10周年と併せて記念誌の発刊、本当におめでとうございます。

平成15年のJAきたみらい発足に伴い、旧8JAのフレミズの一本化に向けた連絡協議会設立から、1年1年の足跡を築いてこられた歴代役員と会員の皆様のご努力に深く敬意を表します。

私は、平成18年度に会長の職を務めさせていただきましたが、まさか自分が「責任のある立場」になるとは思いもせず、不安ばかりが頭の中をよぎっていました。しかし、第1回役員会の雰囲気の良いさを感じて、やっと「1年間頑張らなきゃ!」という気持ちになりました。

本部組織活動のなかで、特に印象深く残っているのは、JAきたみらい合併3周年記念の「ふれあい農業祭」と「8支部合同会員研修会」です。農業祭は、JAとフレミズをアピール出来ることから参加支援することとなりました。当日は、「ヨーヨーつり」と「カキ氷」の販売に取り組み、来場した子どもたちに喜んでいただいたのと同時に、私たち役員も楽しんで参加でき、より一層団結が深まったと確信しました。本当に役員同士仲が良く、今でも交流を続けています。

また、JA北見地区女性協議会のフレミズ役員として、慣れない会議や場所にも緊張しましたが、いろいろな地区の人と出会い、活動をするなかで刺激になり、励みにもなりました。

頼りない会長でしたが、会員、役員、事務局の皆様の助けとご協力のおかげで1年間務めることができ、本当に感謝しています。

ありがとうございました。

10周年を契機にJAきたみらいフレッシュミズが更なる飛躍と発展をご期待申し上げ、お祝いの言葉と致します

## たくさんの仲間恵まれ

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成19年度会長 本條 幸恵



この度は、JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年、併せて記念誌発刊にあたり心よりお祝い申し上げます。この10年の間に、フレミズ活動に参加できたこと大変嬉しく思っています。

平成19年2月に会長職を引き受けた当時、不安でいっぱいだったことを時々思い出します。まだ子どもも小さく、農作業にもあまり携わっていなかったため、会員の皆様に迷惑を掛けるのではないかと思っていました。

一緒に本部役員となった方々や、各種活動に参加してくれた会員の皆さん、そしてしっかりサポートしてくれた事務局の力添えで、1年間無事に終えることができました。翌年2月に開かれた総代会席上で「安堵感たっぷりの挨拶をしていた」と、後に皆さんに笑われたのも今となっては良い思い出です。

JAきたみらいの外郭組織として、北見地区や全道でのフレミズ活動に積極的に参加していくことは、とても大切だと思います。

興味や意欲のある方には今後もどんどん参加して欲しいと思います。また一方で、農業後継者と結婚した女性の方々が地域で孤立せずに、地域に溶け込めるように、フレミズが機能し続けることも心から願っております。

最後に、フレミズ活動を通して、たくさんの仲間恵まれたことに感謝し、JAきたみらいフレッシュミズが益々ご発展されることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

## 組織活動を楽しもう

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成20年度会長 西若 かおり



JAきたみらいフレッシュミズの設立10周年、併せて1年1年と積み重ねてきた形跡を記した記念誌発刊にあたり、心よりお祝い申し上げますとともに関係者各位に改めて敬意を表します。

私は平成20年の第4回通常総代会において会長に選任され、その就任挨拶で「役員の方々と意見を出し合って、『楽しかったよ!』『勉強になったよ!』『友だちが増えたよ!』と言われる活動に取り組みたい」と言ったものの、内心は不安がいっぱいでした。でも関西出身の私は「何とかなるやろ～」と気持ちを切り替え、1年間の職責を全うしようと考えました。

春の繁忙期前に開かれた第1回役員会は総代会以来の顔合わせでした。総代会で決定された活動計画などを協議して行くなかで、前向きな姿勢で意見を述べる役員皆さんに圧倒されながらも、その姿を見て、「1年間、スムーズにやっていけるのでは」と感じました。「やっていけるのでは?」から「やっていける!」と確信したのは、役員全員による札幌方面への視察研修でした。飾ることなく本音で語り合った2日間で信頼関係が深まり、JA合併5周年を記念した「ふれあい農業祭」、全会員を対象にした「会員研修会」、「オホーツク女性協フレミズ研修会」など有意義に終えることができました。この場をお借りして、当時の役員と会員の皆さん、そして事務局の皆さんに厚くお礼申し上げます。

年々、会員数の減少が続いていると伺い、残念に思っています。育児、家事、農作業の三役をこなす私たちが、同じ立場で辛いことや楽しいことを話せる場がフレッシュミズ組織だと思います。役員になれば様々な負担や慣れない場所での発言や挨拶は、「嫌いなあ」と感じましたが、1年の任務を終えた時の充実感は計り知れないものがありますので、多くの会員が積極的に参加し、組織活動を楽しみましょう!

最後になりましたが、10年の節目を機にさらなる発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。



## 気持ちを共有できる出会いの場

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成21年度会長 下田 裕美子



JAきたみらいフレッシュミズが設立10周年を迎えるにあたり、心からお慶び申し上げます。  
平成21年度の会長を務めさせていただいた私は、子育ての真っ最中でした。その時の心境は、支部長の立場と違って会員皆さんの一歩先を行く緊張感と、訓子府地域以外の会員と出会える「ドキドキ・ワクワク」した気持ちが入り混じり、とても複雑だったことを覚えています。しかし、いざ会長としての1年が始まってみると、「今までのフレミズ活動から一歩進んだ何かをしたい」、「フレミズだからこそ、できることをやってみよう」と思うようになりました。その思いを形にしたのが8支部合同会員研修の「ミニ運動会&懇親会」でした。それまでの同研修は物作り体験や健康体操でしたが、運動会は支部にこだわることのないチーム編成で、自然に会話が生まれ、一緒に笑い合えます。本部役員会や三役会議でも多くの時間をかけて計画してきたので、無事終えたあとの達成感は格別なものでした。また、馬鈴薯振興会の道外販売推進にフレミズ会員も同行できる体制も構築され、フレミズ(主婦)ならではの目線で販促活動や市場関係者の懇談会にも同席させていただきました。両活動とも現在も継続され、会員皆さんの楽しい思い出が増えていると考えると、とても嬉しい気持ちになります。任期が終わる頃には、「1年では足りない!もっといろいろなことがしたい」と思えるほど充実した経験を得ることが出来ました。これは一緒に頭を抱え、悩みを共有してくれた本部役員と事務局のお力添えによるものです。そして、この地に嫁いできた立場として、同じ気持ちを共有できる仲間がたくさんできたことが、何よりも大切な宝物です。会員の皆さん、子育てに仕事に家事に、日々忙しいとは思いますが、活動を理解し、送り出してくれる家族に感謝を忘れず、今しかできないことを目いっぱい楽しんでください。最後になりますが、フレミズ組織が10年の節目をステップに益々のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 若さと行動力で活発な組織に

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成22年度会長 吉田 美穂



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年、誠におめでとうございます。また、JA役職員をはじめとした農業関係者皆様には、日頃より大変お世話になり本当にありがとうございます。  
私がフレミズの会長を務めてから早3年が経とうとしております。晩婚だったこともあり、あまり物怖じすることもなく、端野支部の支部長を引き受けた時と同じ気持ちでしたが、そのことがきっかけで私の人間関係や世界観は大きく広がっていきました。その後、オホーツク女性協下部組織のフレミズ部会長、北海道の副会長を務めさせていただき、大勢の仲間たちとの出会いや様々な活動を通じ、いろいろな経験を得ることができ、今は感謝の気持ちでいっぱいです。  
1年間の活動のなかで、強く印象に残っているのは外郭三組織合同の視察研修です。青年部、女性部、フレミズ代表者での行動はすべてが新鮮に感じ、機会があれば「また会ってみたい」皆さんです。本活動が今も続いていることはとても嬉しく、JAきたみらいの手厚い支援に感謝しています。この活動を通じて築かれた絆をもとに、三組織で力を結束して違った何かのアクションを起こしたら「すごいだろうな～」と思っています。  
北海道のフレミズ部会の最終会議が札幌市で開催された当日が、あの東日本大震災。JAビルの19階で恐い思いをしたことが今でも忘れられません。そして今、「生かされているな」と実感し、その経験を無とせず、これからの人生で生かされたいと考えています。  
夫が農業を営んでいるという同じキーワードで結ばれたたくさんのかげがえのない仲間や友人ができ、本組織をはじめ、それ以外の地区、地域に関係なく広がり、現在も交流を深めていることは本当に私の財産です。  
役員を経験して、各組織が役員を中心に頑張り、元気でパワフルに前進する姿は素敵だと感じました。もちろん、JAきたみらいフレッシュミズの会員皆さんは、家業の農業に従事しながらの活動となりますが、若さと行動力を前面に出し、より活発な組織になれることをご祈念申し上げます。

## 女性の発想や活力などで更なる発展を

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成23年度会長 森谷 裕美



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。  
平成22年度に、温根湯支部の支部長として私が本部役員会議に出席していた時期は、JAきたみらいの第3次中期経営計画(～融合してひとつに解け合う～)の真っ只中でした。明確な青写真がないままの何処に進んでよいか分からなく混乱していた状態で、前役員の皆さんは、大変ご苦労された年でした。  
外郭組織の青年部や女性部、生産組織を参考に垣根を越えた活動を行い、さらに組織の将来を見据えた「組織検討委員会」を立ち上げ、支部長は支部の意見集約にご尽力いただきました。  
新年度に向けた役員改選では、なかなか会長が決まらず、投票で私に決まった時には、「会員が望む組織を形成できるのか」という不安ばかりが脳裏をかすめました。しかし、副会長、各支部長、事務局の支えと家族の理解、さらに若いフレミズ会員、豊富な社会経験を持つ仲間のお話を聞き、「なるほど」「そうだよな」と前向きな考えにより、楽しい1年を過ごすことができました。役員を終えた今でも時々集まり、お酒を酌み交わす一生の仲間を得られたことは、とても嬉しく思っています。  
21年度から恒例となった8支部合同運動会、支部内活動の充実にも努めながら、垣根を越えた2支部の視察研修などによって、他支部の会員皆さんの顔と名前を覚え、会話も自然と弾むようになってきました。  
設立当初からみまると、会員数も減少している状況ですが、本組織が存続し、今後、新たに組織に加入する多くの方々が、スムーズに地域に慣れ親しみ、仲間ができるようになればと思います。  
女性の社会進出促進が政府の成長戦略に位置付けられ、農業の現場、農村の活性化などで女性の活躍が期待されるなか、そのための家族の理解促進、環境づくりがとても重要です。女性の知恵、視点、発想、活力でJAきたみらいフレッシュミズの更なる発展を続けられるよう、心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。

## たくさんの仲間との出会いに感謝

JA きたみらいフレッシュミズ  
平成24年度会長 菅野あけみ



JAきたみらいフレッシュミズ設立10周年、誠におめでとうございます。  
歴代会長や役員の皆様のご尽力のもと、10年という長い道のりを歩いて来た歴史ある組織の一員であることを、心から嬉しく思います。  
私は平成24年度に会長を務めさせていただきました。きっと、会長という大役を引き受けた場合、多くの方は不安が先行すると思います。しかし私は新しい役員の方々とのお出合いや、本部行事のことを想像すると不安よりも期待の方が大きく、ウキウキして家に帰ったことを今でも覚えています。  
そんな風楽しいことばかり想像していた私は、実際にはなかなか役員会での意見をまとめられず、「なんとかなるかな～」と甘く考えていたため行事での挨拶もなかなか上手くいきませんでした。自分でも情けなくて申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、副会長の村上郁恵さん、黒須美保さん、事務局の小野寺さんの支えのお陰で、1年間の任期を終えることができました。頼りない会長でしたが、お酒を交えながら皆さんとおしゃべりしている時間は、とても楽しかったです。  
私はフレミズに加入して、15年が経ちました。遠く宮城から嫁いできた私の寂しい気持ちを埋めてくれたのは、フレミズの仲間でした。  
8JAが合併しJAきたみらいとなり、役員を経験したことでさらに幅広い地域と一緒に笑い合える仲間が出来ました。フレッシュとは言いなくなってしまった私ですが、もう少しフレミズとして仲間との楽しい時間を過ごしたいなと思っています。  
最後になりますが、私に仲間というかけがえのない財産を与えてくれたフレッシュミズに感謝し、これからも「農家のお嫁さんの憩いの場」であり続けることを期待し、フレッシュミズの更なる発展と飛躍をご祈念申し上げます。



## 組織形成はすべての会員で

JA きたみらいフレッシュミズ

平成25年度会長 穴田 優子



JAきたみらいフレッシュミズが、設立10周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。  
私がフレッシュミズに入会したのは、平成15年度に旧8JAのフレッシュミズの一本化を目指して立ち上げられた連絡協議会の時です。

初めて参加した活動は、上常呂支部での料理講習会だったと思います。参加者は12名ほどで、誰も知っている人はいませんでしたが、先輩の皆さんは夫のことを知っていて、夫のことや子供のことを話題にして話し掛けてくれました。この時は、子どもも連れて参加しましたが、当時の役員の方が講習会場に併設されている保育所に、子どもを遊ばせに連れて行ってくださいました。その心遣いにより私は、料理講習に集中することができました。

それから9年後に、上常呂支部の支部長になりましたが、JAの事務局体制も変わったのがこの年でした。支部をはじめ本部役員になって、フレミズ組織について理解を深めることになり、より良い組織作りや組織のあり方について考えるようになりました。

翌年の平成25年度に、会長という重責を担うことになりました。この年には、初の試みとなる8支部合同視察研修を行い、参加会員は全体の3分の1の49名でしたが、本部役員と事務局で練りに練った研修は、とても楽しい交流の場になったと確信しています。

私たちフレミズは、家事と仕事、子育てに忙しい毎日を送っています。それでも1年に数度しかない活動に、会員皆さんが集まるのが明日への活力になります。このような組織を作り上げていくのは役員と事務局だけではなく、会員の皆様であると私は考えます。

最後になりますが、農家の女性たちが仲間作りの場を通して結束してJAきたみらいを盛り上げて行くことを期待し、フレッシュミズの更なる発展と飛躍をご祈念申し上げます。

